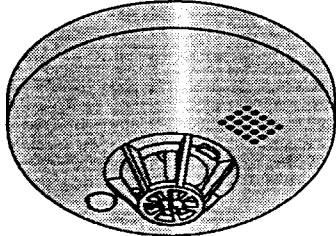


お客様用 取扱説明書

日本消防検定協会 鑑定合格品
住宅用火災警報器

AC電源方式
熱式(定温式/差動式)非防水型
接続器具:住宅用火災警報器ベース(単独型)



「住宅品質確保促進法」対応

FSL012 FSP011

[100V用]

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、下記の△注意を必ずお守りください。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負うか機器の機能に悪影響を及ぼす可能性が想定されます。



機器を分解・改造しないでください。感電・故障・発火の原因となります。



停電して警報器の確認灯が消灯している場合は、本機は使用できません。



注意 携帯電話、無線機などを近くで使用すると、誤動作の原因となることがあります。



注意 お手入れの際は、警報器本体を水洗いしないでください。また、ベンジンやシンナーを使用しないでください。故障の原因になります。

使用上のご注意

- この警報器を取り付ける際には、別売品の住宅用火災警報器ベース(単独型)が必要になります。ベースの取扱説明書に従って、ベースの取り付け及び配線を行ってください。尚、ベースの設置は、必ず電気工事士が行ってください。
- この警報器は住宅用火災警報器ですので、他の用途には使用しないでください。
- 停電時及び通電されたベースに取り付いていない時には警報音(ピー)は鳴りません。確認灯が緑色に点灯していることを時々確認してください。
- 殺虫スプレーなどを本体に直接かけないでください。
- 熱感知部(サーミスタ)にさわらないでください。
- 警報器を分解、改造しないでください。故障の原因となります。
- 警報器の隙間に針金などを差し込まないでください。
- 警報器に水などがかからない様にしてください。また雨水のかかる場所、お風呂などのように高湿度環境または水蒸気の発生する場所には取り付けないでください。
- この警報器は熱をキャッチして警報を発しますが、次の様な場合は火災を感知できないことがあります。
 - 爆発的な火災
 - 火の回りが早い火災
- この警報器は警報音(ピー)をその場で発しますので、日頃、人のいない部屋に設置する場合は、警報音(ピー)が聞こえるかどうか確認してから取り付けください。また、次のような場合は警報音(ピー)が聞こえないことがありますので、注意してください。
 - 薬、アルコールなどを飲んでの就寝中
 - テレビやステレオなどの音が大きい場合
 - エアコン、洗濯機、自動車などの騒音が大きい場合
- 毎月1度、スイッチを押すか、ひもを引いて「ピー」という警報音が鳴ることを確認してください。旅行などで家を留守にした後も同様に警報音(ピー)が鳴ることを確認してください。

注意 ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みください。また、本文中にてでくる注意事項を十分に理解の上ご使用ください。

- この取扱説明書は大切に保管してください。
- この取扱説明書は保証書を兼ねています。
- この商品は定期的な保守点検を必ず行ってください。

NOHMI

保証書

型名	FSL012、FSP011
保証期間	お買い上げ日より1年間
お買い上げ日	年 月 日
お客様	ご住所 〒
	お名前
販売店	住所
	TEL

- この商品は、厳密な品質管理および検査を経てお届けしたものです。
- お客様の正常なご使用状態で万一故障した場合には、保証規定によりお買い上げの販売店がお受けいたします。
- ※ 修理に際しては、お買い上げの販売店に必ずこの保証書を提示の上ご依頼ください。
- ※ この保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

NOHMI 能美防災株式会社

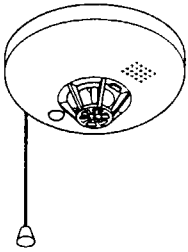
本社 〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3
TEL (03)3265-0211 FAX(03)3263-4948

商品の概要

- この警報器は日本消防検定協会の試験に合格した鑑定品ですが、消防法に規定された「自動火災報知設備」には代用できません。
- この商品は、初期火災の熱をキャッチして警報音で知らせる住宅用火災警報器です。消火装置や火災防止器ではありません。
- お取り付けいただいた部屋、廊下などの部分的な警戒になりますので、万一の火災に対してより効果を発揮させるためには、必要に応じて複数の場所にお取り付けいただくことをおすすめいたします。
- 感知方式の違いについて
 - 定温式 (FSL012) …… 周囲温度が一定値(約65℃)に達した時に作動します。
 - 差動式 (FSP011) …… 周囲温度が一定の割合を超えて上昇した時に作動します。

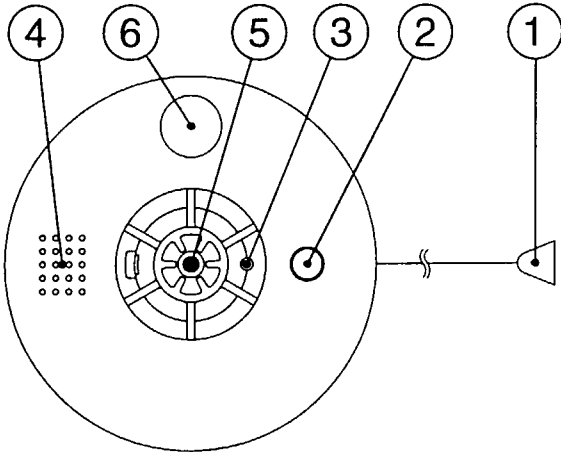
商品のご確認

次のものが揃っていることを確認してください。



- 警報器本体
- 取扱説明書1通
- 注) 住宅用火災警報器ベース(単独型)は別売品です

各部の名称とはたらき

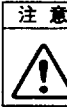
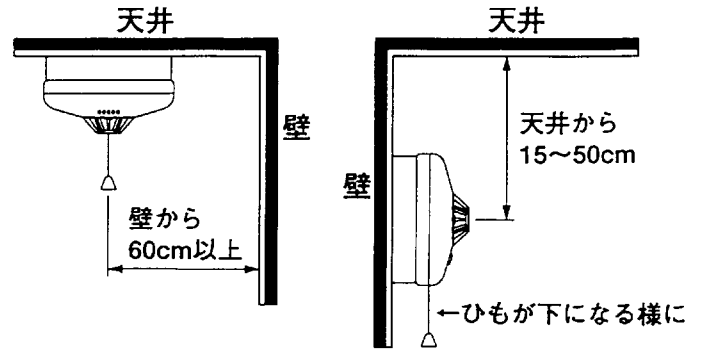


- ひも** : 発している警報音(ピー)を停止するときに使用します。
: 警報器の作動確認時に使用します。
- スイッチ** : 発している警報音(ピー)を停止するときに使用します。
: 警報器の作動確認時に使用します。
- 確認灯** : 平常時は緑色に点灯します。
: 火災時は赤色に点滅します。
: 故障時は緑色に点滅します。
- 音響孔** : 警報音(ピー)が鳴動します。
- 熱感知部** : 熱を感知する部分です。
(サーミスタ)
- 表示シール** : シールが貼られていれば、FSP011です。

取付場所

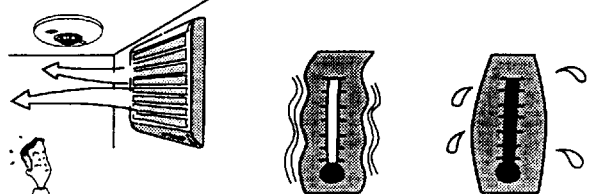
警報器は壁から60cm以上離れた、天井面中央に取付けてください。FSL012において、天井面に取付ける事が困難な場所にあつては、天井面下15cmから50cmまでの範囲の壁面に取付けてください。

FSP011は壁面設置はできません。



注意 FSP011は、必ず天井面に取付けてください。
壁面に取付けた場合、熱を感知しにくくなります。

次のような場所には取り付けないでください。

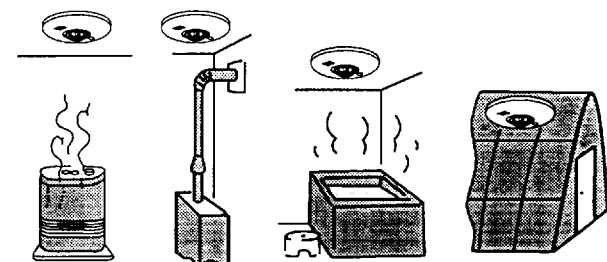


・空調、冷暖房などの吹き出し口の近く

・温度が0℃未満の所

・温度が40℃を超える所

<熱を感知しにくくなります。>



・ストーブやレンジなどの真上

・煙突の近く

・浴室やサウナ室の中

・シートハウスや倉庫などの中

<火災がなくても警報音(ピー)が鳴るおそれがあります。>

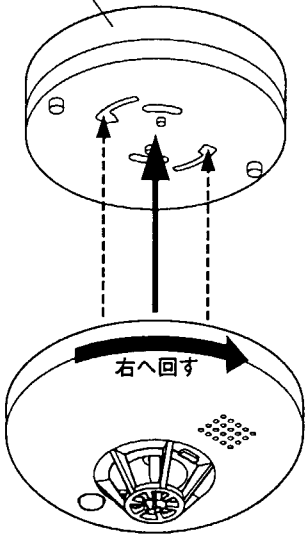
- 警報器は0℃～40℃の温度範囲内の場所に取り付けてください。
- 居室の場合は各部屋の中心になる位置に取り付けると効果的です。

警報器の取付・取外し方法

警報器の作動

注意 当機器を取り付ける際には、別売品の住宅用火災警報器ベース（単独型）が必要になります。ベースの取扱説明書に従って、ベースの取り付け及び配線を行ってください。尚、ベースの設置は、必ず電気工事が行ってください。

住宅用火災警報器ベース（単独型）



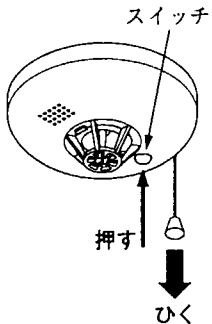
取付方法

・警報器をベースに取り付ける時は、警報器裏側の電源端子（金具）と、ベース表面の孔形状を一致させ、警報器本体を右に回転させてください。「カチッ」と音がしたら取付完了です。正しく取り付けられていれば、警報器の確認灯が緑色に点灯します。

取外し方法

・警報器を取り外す時は、警報器本体を左に回転させてください。

警報器の作動確認



警報器をベースに取り付け、確認灯が緑色に点灯確認後、スイッチを押して（又はひもを引いて）ください。警報音（ピー）が鳴れば正常です。尚、警報音（ピー）はスイッチ（又はひも）をはなすと鳴り止みます。

1. 熱を感知すると

火災警報器が「ピー」という警報音を発して、火災を知らせます。直ちに現場を確認して、消火などの必要な処置を行ってください。また、熱がなくなると警報音（ピー）は自動的に止まります。



2. 警報音の止め方

スイッチを押して（又はひもを引いて）ください。警報音（ピー）が止まります。尚、警報音（ピー）の停止と同時にタイマが作動しますので、再び熱を感知しても5分間は警報音（ピー）が鳴りませんのでご注意ください。

お手入れ方法

注意 警報器本体を水洗いしないでください。また、ベンジンやシンナーを使用しないでください。故障の原因になります。

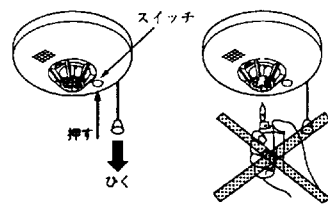
年に2～3回、化学雑巾または中性洗剤を浸して十分に絞った布で本体の汚れを拭き取ってください。この際、熱感知部に触れない様、注意してください。



定期点検

注意 点検時、ライターなどの炎を使わないでください。警報器の故障ばかりでなく、火災の原因になります。

取り付け後は定期的に（1ヶ月に1度）スイッチを押して（又はひもを引いて）作動点検を行い、警報音（ピー）が正常に鳴ることを確認してください。



故障かな？と思ったら

警報器の症状とその原因、対処について下表に示します。下記の対処を行っても直らない場合は、当社または販売店までご連絡ください。

症状	原因	対処
1 スイッチを押して（又はひもを引いて）も警報音（ピー）が鳴らない	・元電源（ブレーカー等）が入っていない	・元電源（ブレーカー等）を確認し、電源を入れてください。以上の項目を確認しても確認灯が緑色に点灯しない場合は、販売店までご連絡ください。
	・警報器作動後、スイッチ（又はひも）を操作し5分間経過していない	・5分後スイッチ（又はひも）を操作してください
2 火災ではないのに、警報音（ピー）が鳴る	・火災以外の熱（料理中の熱、ストーブやガスコンロの熱、直射日光などによる熱等）を警報器が感知した	・熱感知部周辺の温度が下がるまでお待ちください。また、火災以外の熱で警報音（ピー）が多発する場合は設置場所を変えてください。
3 確認灯が緑色に点滅する	・警報器の故障です	・販売店までご連絡ください

アフターサービスについて

1. この商品には保証書がついています。お買い上げの販売店で所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
2. 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。万一故障した場合は、内部機構をさわらずにお買い上げの販売店に修理をお申し付けください。保証規定により修理いたします。
3. アフターサービスについてご不明の場合、その他当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げの販売店か当社にご連絡ください。

保証規定

1. 保証期間内（お買い上げ日から満1年間）に、正常なご使用状態において万一故障した場合には、無料で修理いたします。
2. 次のような場合は、保証期間内でも有料になります。
 - ①保証書の提示がない場合
 - ②使用上の誤り、不正な修理や改造による故障や損傷
 - ③お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障や損傷
 - ④火災、地震、水害、異常電圧、公害、指定外の電源使用（電圧・周波数）およびその他の天災地変等による故障や損傷
 - ⑤保証書の所定事項の未記入や字句が書き換えられた場合
3. 保証書は日本国内においてのみ有効です。

仕様

型名	F S L 0 1 2	F S P 0 1 1
種別	住宅用火災警報器	
鑑定型式番号	鑑ヶ第13～12号	鑑ヶ第13～10号
感知方式	熱式（定温式）	熱式（差動式）
定格	A C 100 V、50 m A	
電源	A C 100 V、50 / 60 H z	
音量	1 mにて70 dB以上	
外形寸法	φ 9 9 × 3 9 . 6 mm	
質量	約85g	
使用温度範囲	0 ° C ~ 40 ° C	

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

郵送についてのお願い

警報器を当社へ郵送される場合は、次のことに注意してください。

1. 保証期間内であるときは、本書を商品に同梱してください。
2. 商品は緩衝材に包んで箱に入れるか、または郵送用の袋などに入れて、輸送中の損傷を防ぐようにご配慮ください。
3. 紛失などを防ぐため、簡易書留をご利用ください。